



楽園開闢

世界と関わり成長する姿は、自らの世界を作り出す景色と重なる。
彩る全ての出来事が、豊かな楽園の景色となるように願っている。



見透く景色

娘が庭木で見つけた蝶の蛹、猫や鳥たちの領域であるここでは、羽化までもたないというこでしばらく保護することに。幸い羽化の直後に立ち会うことができ、感激しつつ不思議そうに眺めていた。図鑑で知っていたことも目に映るその景色はひとときわ輝いて見える。アクリル板越しの時期が終わりを迎え、映り込む世界が祝福で溢れた景色であるように願う。



未見の花

誰かの琴線に触れた時その人を象徴する花として咲くように、未だ見ない人の肖像としての花を描いた

目の前の誰かを描くのではなく、これから会う人を描いた



未明

未だ明けきらない景色のなかにも幸運を見つけることができるように。



くさむら

ままならない生活のなか、手を施す隙もなく植物が生い茂った我が家の庭。そのような庭でも、日々の生活の合間の気晴らしにはちょうど良い。勘を働かせて植物たちをかき分けると、開けた空間に謎のきのこや蜥蜴がいたり、普段気にもとめなかった存在たちに気づける瞬間がある。どうしようもない状態でもささやかな気づきに救われる、そのような愛憎まみえる荒れた庭の片隅を描いた。



やまになるこ

朽ちた仏像や地殻変動の景色など、何かであったもの、何かになろうとしているものに強く惹かれる。木を彫ることはままならず、思い描いていた像とはかけ離れていく、イメージに近づけるのではなく、そこに見える景色に寄り添うように彫り進める。そこには、なり損なったものと何かになろうとしているものが同居している、それは人のありようそのものであるように思う。そのような、なり損なったものと何かになろうとしたものを含めた人の存在のありようを、造山活動に見立て、人が山になる景色として作った。